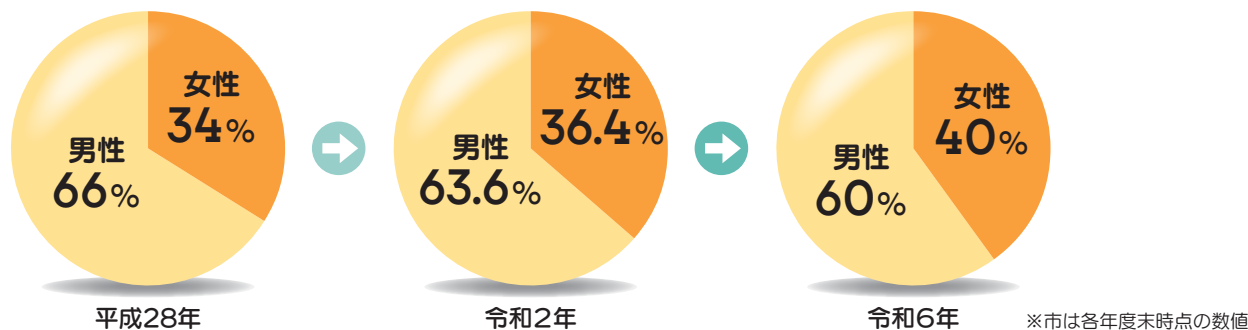


政策・方針決定過程での男女共同参画

急速な少子高齢化、人口減少の進展、価値観の多様化が進む中、社会や経済の変化に対応できる活力ある持続可能なまち、誰もが暮らしやすいまちの実現には、男女双方からの多様な視点が必要です。そして、多様な視点からの意見が政策・方針決定の過程に的確に反映されるために、男女が共にその過程に参画することが重要です。

鹿児島市ではどうなの？

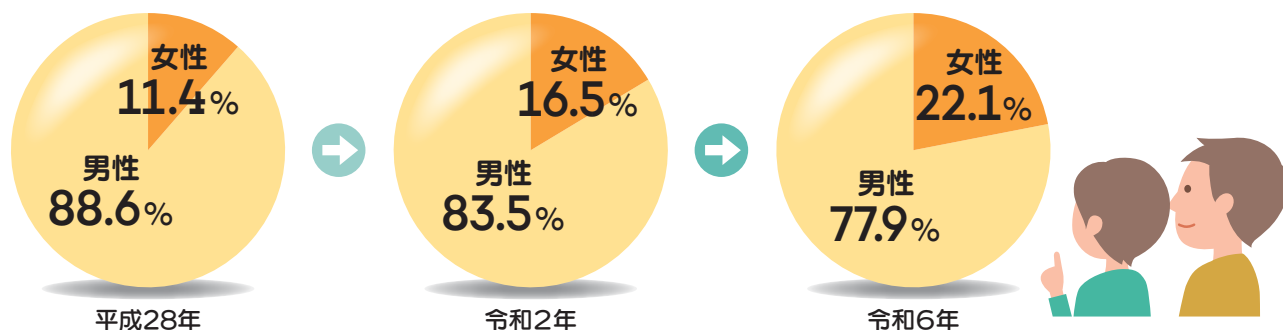
●市の審議会等における推移



市では、審議会等における女性委員の割合を令和13年度までに40%以上60%以下にすることを目標に取り組み、参画率は増加してきています。令和6年度に目標値である40%は達成していますが、国(42.0%)や県(42.5%)に比べるとまだ低い状況にあります。

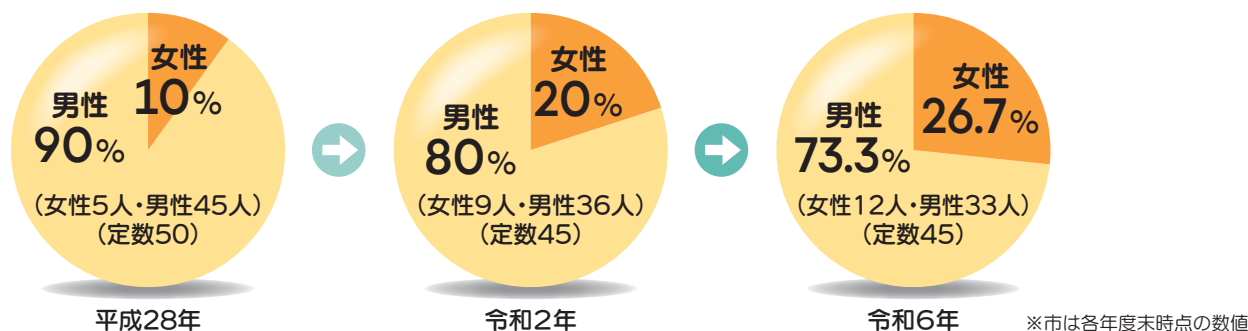
※国は令和6年9月30日時点、県は令和7年3月31日時点の数値

●市の管理職における推移



鹿児島市役所における女性管理職の割合は着実に上昇しており、「女性職員の活躍の推進に関する特定事業主行動計画」に掲げる令和6年度目標値の22.0%は達成していますが、令和11年度目標値の27.0%超に向けて更なる取組が必要です。

●市議会議員における推移



国の「第5次男女共同参画基本計画」においては、国際社会の動きも踏まえ、政治分野における男女共同参画を積極的に推進することとしています。そのような中、鹿児島市議会の女性議員の割合は、都道府県議会の平均14.6%、市区議会の平均20.3%と比較すると高水準にあります。

※県議会、市区議会の平均は令和6年12月31日時点の数値

女性の参画の“壁”とは？

●「地方公共団体における女性職員の活躍に関する取組状況調査」より

どのような条件が整えば、管理職(課長相当職以上)を目指したいと思いますか？

- 時間外勤務の削減など働き方改革が推進されること
- 管理職を目指すに際しての不安を解消する相談体制が充実すること
- 管理職の業務内容に興味ややりがいを知る機会が与えられること
- ロールモデルとなる上司や先輩がいること
- 昇任前後において十分な研修を受講できること

(出典：総務省「地方公共団体における女性職員の活躍推進のためのガイドブック」・令和5年4月)



●「女性の政治参画への障壁等に関する調査研究報告書」より

女性が政治参画をする上での障壁とは？

- 固定的な性別役割分担意識
- ハラスメント被害
- 政治活動・議員活動と家庭生活・職業生活との両立
- 相談しやすい環境の不足
- 専門性や経験の不足

(公表：内閣府男女共同参画局・令和7年3月)



レットライ！

- まずは市が行政として率先して取り組み、事業所や地域に対し、継続的に男女共同参画の大切さについて理解促進に努めていきます。
- また、多くの方々に、社会を構成する一員として、性別にかかわらず積極的に社会活動に関わっていただきたいと思います。

